

栃木医療センター

No.33 2018 January

理念
信頼 貢献 協働



Contents

- 年頭挨拶 1
- 第71回 国立病院総合医学会 2
- 宇都宮市医師会、合同医療セミナー、職場紹介(医事部門) ... 3
- アレルギー対応食おもてなし料理コンテスト ... 4
- ボツリヌス療法のご案内 5
- 連携医紹介(医療法人いちほファミリークリニック) ... 6



2018年 年頭のご挨拶



戌

院長 長谷川 親太郎

明けましておめでとございませう。平成30年の年頭に当たり、ご挨拶を申し上げます。

日本の少子高齢化の進展度は世界の先頭を走っており、**超**少子高齢化と形容するほど深刻な状況を迎えようとしています。この困難を乗り越えるのに、他国の施策をお手本にしたくても、日本が世界に先駆けて少子高齢社会を迎えるので、参考にできる国はありません。日本は自らの知恵と力で、国民が一丸となり、互いに助け合いながら、この困難を克服していくしかないのです。

医療・介護などに関して、国は地域包括ケアシステムという仕組みを構築することにより、何とか乗り切っていくつもりです。地域包括ケアシステムというのは、一言で言えば、医療・介護・地域社会が協力して一人の患者さん（すなわち、国民のことです）を支えて行く仕組みのことです。これはとても大きな概念で、医療はその中の一部分でしかありません。一言に医療と言っても、高度急性期、急性期、回復期、慢性期、在宅と色々な機能が求められます。大病院から診療所まで各医療機関が機能分担し、密に連携を取っていかなければ、このシステムは構築できません。これが、今後の医療界では「機能分化と連携」が肝要と言われる由縁です。

ここまで、今後の日本の医療のあり方について、お

話してきました。では、栃木医療センターはどのような役割を担って行く方針なのかを述べさせていただきます。当院は3年半前に病棟を新築し、高度な機能を備えた手術室を完成させ、最先端の各種医療機器を配備し、医師をはじめとして各種医療スタッフを増員し充実を図ってきました。このような経緯からも、「栃木医療センター」は急性期医療機関として地域に貢献していくべきであると考えています。「ワンランク上の医療機関を目指して、さらなる進化を続ける」ことを目標に掲げて努力してまいります。本年も宜しくお願いたします。

第71回 国立病院総合医学会

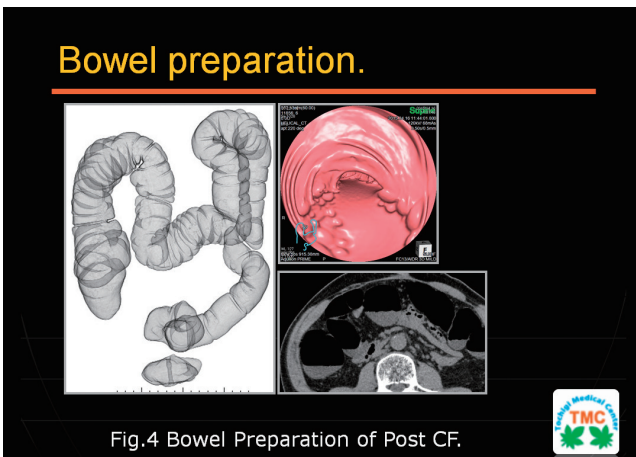
高齢者のポリファーマシーへの協働介入 (第二報) ～薬剤師だからできること

薬剤部 酒井 彩

2017年11月10日(金)、11日(土)に香川県高松市において第71回国立病院総合医学会が開催され、「高齢者のポリファーマシーへの協働介入(第二報)～薬剤師だからできること」について発表を行いました。

当院では2015年1月からポリファーマシー外来を開設し、入院患者さんを対象とした多職種協働チーム(総合内科医、薬剤師、看護師、地域連携室)による介入を行っています。2年前の同学会での第一報に続いて、今回は、この2年間の取り組みと介入結果について報告させていただきました。ポリファーマシーという言葉は、“ポリ”は“多くの”、“ファーマシー”は“薬”という意味です。どの薬にも副作用や相互作用があり、薬が増えるほどそのリスクが増える危険性があります。取り組みの内容としては、薬の組み合わせや副作用の確認を含めた薬剤調整を行っています。開設以降に介入した患者数は延べ104名となり、中止薬剤の中で多かったのは粘膜保護薬やベンゾジアゼピン系睡眠薬などがありました。日頃、かかりつけ医療機関との情報共有を意識して行っておりますが、今後はより一層、地域の医療機関との連携を図りながら取り組んでいきたいと考えています。

今回、初めての学会発表でしたが、日頃の活動を人に伝えることの難しさや大変さを実感し、それとともに、抄録やポスターの作成から当日の発表までをやり切ったという達成感を味わうことができました。今回の貴重な経験を、これからの日々の業務にも活かしていきたいと思っております。



大腸内視鏡実完遂症例における3D-CTの 腸管外病変の評価

放射線科 森 慶太

私は11月10日に香川県高松市で行われた第71回国立病院総合医学会に参加し、口述発表しました。

私が発表した演題は「大腸内視鏡未完遂症例における大腸3D-CTの腸管外病変の評価」です。当院では、内視鏡が挿入困難であった方に対して、大腸CTという検査を行うことがあります。

大腸疾患におけるゴールドスタンダードは大腸内視鏡検査ですが、これを補完する役割に加え、腸管外の疾患についても評価できる事が大腸CT検査の特長と考えています。実際に、私たちが大腸内視鏡未完遂後に撮影した26例中6例では、早急な医療介入を要する重大な腸管外病変が発見されました。この結果から、大腸CTを行うことによって、重大な腸管外病変を発見できる可能性が示唆されました。今後も研究を継続し、大腸CT検査に対する情報提供を行っていききたいと思います。

この学会で発表するために行った、データ整理や抄録作成、スライド作成、などとても良い経験をさせて頂きました。また、いろいろな論文や医学雑誌などを読むことで自分の知識を深めることもできました。これからも学会発表等に積極的に取り組み、更に知見を深め、患者さんの為のより良い医療に貢献していきたいよう努力したいと思います。

第 208 回 宇都宮市医師会・合同医療セミナー

～漢方の基本 気血水、耳鼻咽喉科・内科・整形の漢方～

さる9月26日(火) 地域医療研修センター大講堂にて第208回 宇都宮市医師会・合同医療セミナーが開催されました。今回は漢方のお話を県内で臨床の現場でご活躍されている3名の先生からご講演頂きました。金子耳鼻咽喉科クリニック院長・金子達先生からは、耳鼻咽喉科医の立場から“漢方の基本・気血水、難聴・耳鳴り・めまいと水毒”、宇都宮漢方懇話会会長・戸村光宏先生からは、内科医の立場から“気に関する腹痛 小建中湯の実際”、松村外科整形外科院長・松村崇史先生からは、整形外科医の立場から“瘀血に関する関節痛”という演目でご講演頂きました。最近話題の東洋医学、漢方医療。平日にも関わらず大勢の先生方に出席頂き盛会となりました。

宇都宮市医師会・合同医療セミナー担当幹事
加藤 徹・田代 昌継

職 場 紹 介

医 事 部 門

私たち「医事」は、国立病院時代の名残で「医事課」と呼ばれることが多いのですが、現在は事務部企画課の一部門となっています。総勢50人超の私たち医事部門の仕事は、患者さんの受付に始まって、診療費の計算、診療報酬の請求、その他もろもろ非常に多岐にわたり、診療部門と患者さんの橋渡し役として、事務部の中では患者さんと直接対応する機会が最も多い部門です。

医事職員は、患者さんが受付をするときに初めて接する病院職員ですが、最後に会計の窓口で対応するのもまた医事職員です。私たちは診療や看護、その他の医療専門職ではありませんが、病院で最初と最後に接する私たちの対応が患者さんのホスピタリティーに直結する重要な部門だと誇りをもって日々の業務に取り組んでいます。

また、医事業務の別の面として、診療費を計算・請求するために保険診療や診療報酬の制度を正確に理解していなければならず、日々の知識の吸収・研鑽が欠かせない、ということがあります。特に2年毎に改定される診療報酬制度は、改定のたびに知識を更新しなければならないので、なかなか大変です。

このように、主に外来1階のカウンターの後ろで日々右往左往している私たちですが、患者さんからの「ありがとう」の声を励みに、これからも「わかりやすく正確な」業務に務めてまいります。



病院施設・各種学校対抗！ アレルギー対応食おもてなし料理コンテスト

「奨励・ふるさと賞」受賞



栃木医療センター
小児アレルギーエデュケーター（PAE） 看護師 田野井寛子

平成29年7月に滋賀県で行われた、第34回日本小児臨床アレルギー学会のイベントに応募し「奨励賞・ふるさと賞」を受賞することができました。テーマは5歳の誕生日、手軽に入手可能で特定原材料7品目（卵・乳・小麦・そば・落花生・えび・かに）をいずれも使用しないおもてなし料理を考案するというコンテストです。メンバーとともに考えたことは栃木県にちなんだ食材を使い、栃木をアピールできるもの、家族みんなで楽しく簡単に作ることができて食物アレルギーのお子さんが喜んでくれるものにしようということでした。そこで、栃木医療センターの所在地である宇都宮市のソウルフード、餃子に挑戦することにしました。しかし餃子の皮を小麦粉でなく米粉に代替えするとポロポロで粘り気がなく皮になりません。試行錯誤の結果、ジャガイモをすりおろし熱湯を加えつなぎにすることで、パサつきを抑えることに成功しました。他にとちおとめ（イチゴ）のデザートや湯葉を使用した副菜を考案しました。栃木県の特産物を使用したメニューは一次審査を通過しクックパッドに掲載され、その閲覧数などで二次審査を通り奨励賞を受賞することができましたが、実際に原材料7品目の除去メニューは想像以上に大変でした。

わが国の食物アレルギーの有症率は乳児で約5～10%、幼児で5%、学童期以降が1.5～3%といわれ、多くの子どもと家族が楽しむはずの食事に不安を抱えています。保育園など年少期から親からはなれ集団生活をする子どもや、学童期に入り大人の監視下から活動範囲が拡大する子どもを持つ両親の不安は計り知れないと思います。平成26年6月に、アレルギー疾患対策基本法（平成26年法律第98号）が成立しました。この法律では、「国、地方公共団体、医療保険者、国民、医師その他の医療関係者及び学校等の設置者又は管理者の責務を明らかにし」、「アレルギー疾患対策を総合的に推進することを目的とする」ことが明示され、基本的施策として、専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成、医療機関の整備、アレルギー疾患を有する者の生活の質の維持向上等に必要な施策を講ずるものとしてとされています。日本小児臨床アレルギー学会認定の小児アレルギーエデュケーターはアレルギーの専門知識と指導技術を持ち、子どもやそのご家族が目的に向かってアドヒアランス（治療方法について、患者が十分に理解し納得した上で実施、継続すること）を高めるための支援を期待されています。需要が高まるアレルギー疾患対策に、幅広い職種のメディカルスタッフが専門的な知識と指導技術を必要とされているのです。

今回のコンテストでは、医師、看護師、管理栄養士で構成されたチームでメニューを考案しました。アレルギー除去食を進める上で、不足する栄養素を補うようアドバイスすることは重要です。コンテストに参加して、食物アレルギーを持つ子どもとご家族の苦労を実感することができたことは、具体性と個別性のある指導に結びつく学びとなりました。簡単に出来るレシピを考案しようと試みましたが、その完成には想像以上に苦戦し、子どもたちの喜ぶ顔が見たくて作る料理がこんなにも大変なのだ実感することとなったのです。今回のコンテストの経験を活かし、病院で出会う子どもたちやそのご家族に、労いと尊敬の気持ちを持って、食物アレルギーへの不安や悩みを少しでも和らげ、子どもたちの成長と発達に少しでも力になれば幸いです。



ボツリヌス療法のご案内



手足のつっぱり（痙縮）の治療

脳卒中の後遺症のひとつに痙縮という症状があります。

痙縮とは手足の筋肉のつっぱりです。ひじが曲がったまま伸びない、手の指が握ったまま開かないなどの症状は、手足の筋肉のつっぱりによるものなのかもしれません。

このような症状でお困りの方はご相談下さい。

代表的な痙縮

- ・手指が握ったまま開きにくい
- ・肘が曲がって動かしにくい
- ・足の筋肉がつっぱって歩きにくい



ボツリヌス療法とは

ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌が作り出す天然のたんぱく質を有効成分とする薬を筋肉内に注射する治療法です。効果は注射後2～3日後から徐々にあらわれ、通常3～4ヶ月持続します。ボツリヌス療法により、痙縮そのものが治るわけではありませんが、治療によって痙縮がやわらぎ、日常生活動作やリハビリテーションを行いやすくなるのが期待できます。

お問い合わせ先：地域医療連携室（平日8：30～18：00）

TEL：028-622-0299

FAX：028-622-5278

医療法人いちほらファミリークリニック

院長 市原 征洋

当院は羽黒山の梵天祭りで有名な旧上河内町に位置し、田原街道を北上して国道293号線との交差点を左折したところにあります。当院は2013年5月に開院して、今年で開業5年目になります。

私は平成6年に自治医科大学を卒業し、出身県である山形県に戻り、主に消化器一般外科医として11年間勤務させていただきました。その間、県内各地の町立病院や、豪雪地帯の村立診療所などでの僻地医療にも従事させていただき、外科診療だけではなく内科、小児科、整形外科、訪問診療など幅広くプライマリケアの診療をさせていただきました。その後、家庭医療の勉強のために神奈川県内の病院で4年間勤務させていただき、2009年から宇都宮市内のクリニックに院長として勤務させていただきました。

当院では外来診療として外科、内科、小児科、整形外科、消化器内科を掲げていますが、お子様からお年寄りまで、年齢・性別・病気の種類を問わず、ご家族の皆様のかかりつけ医として健康管理のお役に立ちたいと思っております。ちょっとした健康相談や日常よくある健康問題など何でもご相談ください。また在宅医療にも取り組んでおり、ひばりクリニック、村井クリニック、ししど内科胃腸科クリニック、さつきホームクリニックとの連携のもと、機能強化型在宅支援診療所として24時間365日対応の訪問診療を行っております。定期的な訪問診療には昼休みと木曜午後の時間に伺っております。訪問看護師さん、訪問薬剤師さん、ケアマネージャーさん、訪問リハビリや介護の皆さん、訪問歯科医の先生とも緊密に連携を取らせていただいております。毎月開催している在宅ミーティングでの情報交換など、日頃から大変お世話になっております。

外来診療や訪問診療を続けていくうえで、NHO 栃木医療センターのような後方支援病院があることは非常に心強く、特に緊急入院の受け入れや、当院で対応困難な検査や治療など、先生方やスタッフの皆様には、必要時には迅速に対応していただいております。大変感謝しております。

引き続き、この地で地域医療の一端を担うべく努力していきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。



ご案内

〒321-0414

栃木県宇都宮市中里町322

診療科目 外科・内科・小児科・整形外科・消化器内科・在宅診療

電話 028-612-8350

ホームページ <http://ichihara-family-cl.com/>

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:30	○	○	○	○	○	○	/
14:30~18:30	○	○	○	/	○	/	/

木曜午後・土曜午後 日曜・祝日は休診とさせていただきます。

インフルエンザを知ろう

感染防止対策室

インフルエンザとは…インフルエンザウイルスが喉や肺に感染して発症する病気です

★症状

発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、
倦怠感、鼻水、咳など

★潜伏期間

1～3日（病気がうつってから
体に症状が出るまでの期間）

★感染経路

飛沫（ひまつ）感染、
接触感染

感染対策

★手指衛生（①手洗い②アルコール消毒が有効）

- <方法> ①手洗いは流水で手を濡らし石けんを泡立ててから手のひら、
手の甲、指の間、親指、爪先、手首を30秒かけて擦り洗います。
②アルコール消毒は最初に爪先に擦りこみ、まんべんなく
消毒剤が乾燥するまで手全体に擦りこむ。
- <タイミング> 家に帰った時、食事の前、咳やくしゃみが手に付いた時、手
が汚れた時など

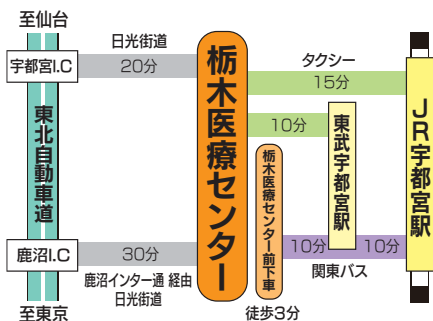


★咳エチケット

咳・くしゃみの際はティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけ
2m以上離れる。咳をしている人はマスクを着用する。



交通のご案内



発行人

独立行政法人国立病院機構
栃木医療センター
院長 長谷川 親太郎

〒320-8580
栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37
TEL. 028-622-5241
FAX. 028-625-2718
URL. <http://www.tochigi-mc.jp/>

